

# にこにこだいにっこ！ みんなで【りりこ】を育てよう

年長、23名(メイン)  
年中、24名 年少、22名  
鈴木先生・佐藤先生



## 活動のねらい

- ① 苦手な野菜を工夫して加工することで、好きになったり興味を持ったりする。
- ② 異年齢でのお世話を通して絆を深める。
- ③ 異なる生育環境で育てることで、生長の違いに気づいたり、まわりの友だちと共有する。

## この活動のポイント

畑(みんなの「凜々子」とペットボトルのプランターでの栽培(自分の「凜々子」)で、生長の違いを観察したり、愛着を持って育てることができました。苦手な野菜を少しでも減らそうと各年齢ごとに分担して調理を行ってカレーを作るなど、園全体の一体感も高まりました。

## 活動の概要と流れ

準備	使わなくなり荒れた畑を子どもたちの手で整えて土づくりを行う
定植	個人の苗としてペットボトルを利用したプランターに、みんなの苗として畑に植える
着果	「凜々子」の写真を撮りプロジェクターで映したり、本プログラムのWebサイトで動画を見て観察を深める。葉の枯れや変色の原因を話し合う。 年長組が収穫した「凜々子」で「ホットドッグ」用のトマトケチャップを作ることを計画
収穫	風雨除けのネットやビニール袋を用意する。畑に植えた「凜々子」とペットボトルのものの違いが見られる。水のやりすぎ、尻ぐされ症の対策に追われる。 収穫した「凜々子」は自分の名前がわかるようにして冷凍保存する。 「カレーパーティー」を開催。年齢に合わせた役割分担で調理をしてみんなで食べた。
畑じまい	まだ実っている青いトマトは、収穫してベランダで追熟させてみる

## 家庭・地域との連携 オリジナルの活動や学び

### 🍅 家庭との連携

「凜々子」を育てている小学校にきょうだいがいる子どもや、家族にトマト農家がいる子どもが、育て方を聞いたりした。



### 🍅 地域との連携

園の栄養士の家は農家だったので、アドバイザーとして活躍してくれた。



## 取り組みの工夫と実践の成果

### 🍅 畑とプランター栽培の組み合わせで違いを実感

若松第二保育園では畑の広さが足りなかったため、すべての苗を畑に植えるのは難しく、ペットボトルプランター栽培と組み合わせることで栽培活動を行いました。畑とペットボトルの生長の差を観察でき、ペットボトル栽培では一人ひとりが自分の苗を持つことで、子どもたちはお世話するのが楽しかったようでした。

畑に植えた「凜々子」は年長児に限らず年中・小児も水やりや収穫に関わり、「みんなの畑のみんなのりりこ」として育てることができました。ペットボトル栽培は土の量が少ないので、どうしても生育が畑より難しくなります。保護者の方からもアドバイスをもらい、育て方のコツを教えてくださいなど、家庭との連携も図ることができました。



### 🍅 トマトケチャップを作る目標に向かって

年長組ではオリンピックやワールドカップにちなんで「世界の料理」というテーマで食育活動に取り組みました。

「ホットドック」(アメリカ)を取り上げ、トマトケチャップも作ることにしました。

トマトケチャップは買うものという認識でいた子どもたちは「作れるの?」と驚いた様子でした。トマト・玉ねぎ・酢・砂糖・塩を組み合わせることで好きな味を作ることができる、ということを知り大盛り上がり。多くの子は「トマトは苦手だけどケチャップは大好き!」と言います。調理で子どもたちが携わったのは、湯むきしたトマトを袋に入れ、細かくつぶしていくという工程。湯むきをしたトマトは「宝石みたい!」と子どもたちが思わず声に出すほどきれいな色でした。つぶす感触をおもしろがったり、種を観察したり、楽しい時間となりました。

保育室にカセットコンロとガラス製の鍋を持ち込み、子どもたち工程を確認しながら、ぐつぐつと煮ていきます。できたトマトケチャップを試食したトマトが苦手な子どもから、「おいしい! トマトが苦手だけど大好きになった!」という言葉が聞かれました。「お家でもやってみよう」とホットドッグを笑顔でほおぼる姿がなんとも可愛らしかったです。



### 担当の先生よりひとこと

これまでミニトマトの栽培などは行ったこともありましたが、本プログラムは教材も準備しており、それを活用しながら栽培を行ったことでより理解を深めることができました。食を通して異年齢が関わりあい、一緒に育てたという仲間意識を持ちながらカレーの大鍋を囲んだ姿を見て、胸が熱くなりました。「苦手な食べ物をどうにか少なくしてあげたい…」と保育者は願うところですが、工夫することで子どもたちが一転して好きになったり、育ててみることで愛着を持ってくれたりという機会を作ってくださいありがとうございます。

### 受賞理由

畑とペットボトルのオリジナルプランターそれぞれで栽培し、生長の様子を比較して学びにつなげられました。育つ様子が全く違って驚いたことだろうと思います。また、本プログラムサイトにある教材の活用、他学年との交流に加え、天候や尻腐れに対応するための工夫や青いトマトの追熟の観察など、探求する活動が光っていました。手作りのトマトケチャップやカレーの味が子どもたちの思い出になっていたらうれしいです。

